

肱川水系の特徴と課題

難しい治水対策

- ・ 下流部は兩岸とも山脚が迫り、狭隘な地形で平地がない
- ・ 中上流に盆地が開け人口集積が高い
- ・ 中流部では河川沿いに市街地が近接
- ・ 激特事業が完了（H7洪水対応）しても、治水安全度が低い

河川空間の利活用と豊かな自然環境

- ・ 鶉飼い、芋たきなど、河川空間を活用した地域行事、観光が盛ん
- ・ 多くの水防林が河畔林として残り、多様な動植物が生息・生育

水環境の改善

- ・ 流域負荷量の増加、野村・鹿野川ダム湖ではアオコが発生
- ・ 流域内全市町村で清流保全条例を制定し、清流保全推進協議会を設立（H14.7）
- ・ 鹿野川ダムの発電放流により下流の流量が変動

肱川における現状及び特徴

課題等

難しい治水対策



大洲市街地を守る楯形地区の特殊堤



堤内側

激特事業で一部高さの低い堤防の施工 (豊中地区)



地上げ方式による堤防 (五郎駅前地区) 施工後 (現在)



難しい治水対策

- ・下流部は、兩岸とも山脚が迫り、狭隘な地形で平地がない。
- ・中上流に盆地が開け人口集積が高い。
- ・中流部では河川沿いに市街地が近接している。
- ・激特事業が完了 (H7 洪水対応) しても 1/15 と治水安全度が低い。

地形特性に応じた治水対策

- ・旧城下町を守る特殊堤防
- ・地上げ方式による治水対策
- ・上下流の治水バランスに応じた堤防整備 (一部高さの低い堤防を施工)

河道と洪水調節施設での対応

- ・下流部では両側とも山脚が迫っていること、中流部では河川沿いに市街地が近接していることから、堤防の高上げ、引き堤は大規模な土地利用の改変を伴うため極めて困難

下流部での地上げ方式等による対応

流下能力不足箇所の河道掘削

洪水調節施設の整備

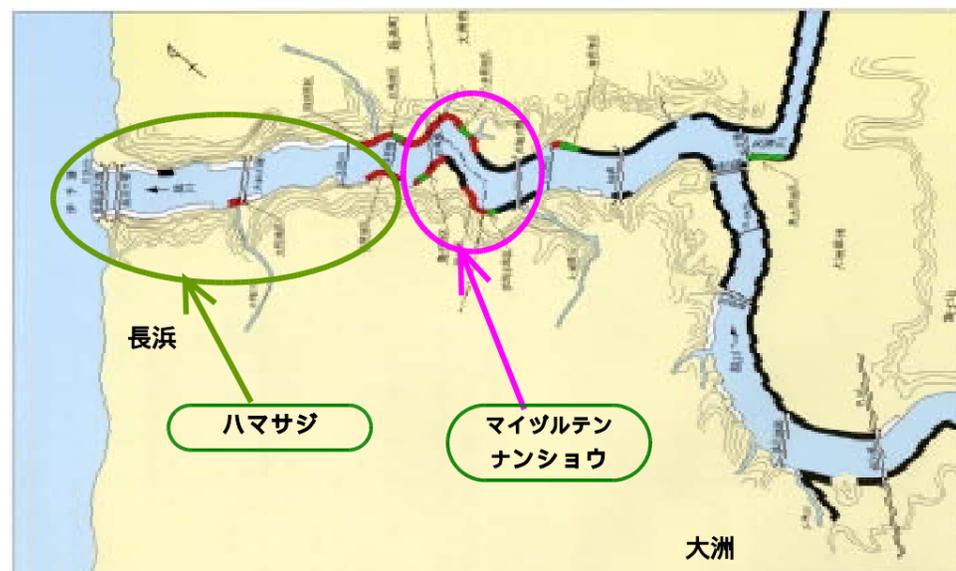
既設洪水調節施設

- ・鹿野川ダム (昭和35年完成)
- ・野村ダム (昭和57年完成)

肱川における現状及び特徴

課題等

河川空間の利活用と豊かな自然環境
多様な河川空間の利用



多様な動植物が生息・生育



レッドリスト
VU: 絶滅危惧 類

多くの水防林が河畔林として残り、多様な動植物が生息・生育



多様な河川空間の利用

- ・有名な鶺鴒い、河原での芋たきなど、河川空間を活用した、地域行事、観光が盛ん

地域活性化への支援

多様な動植物が生息・生育

- ・多くの水防林が河畔林として残り、多様な動植物が生息・生育

貴重な自然環境を保全

肱川における現状及び特徴

課題等

水環境の改善

肱川流域図



水環境改善の流域での取り組み

目的
流域の市町村、国及び県が連携して河川の浄化と河川環境の保全を図ること

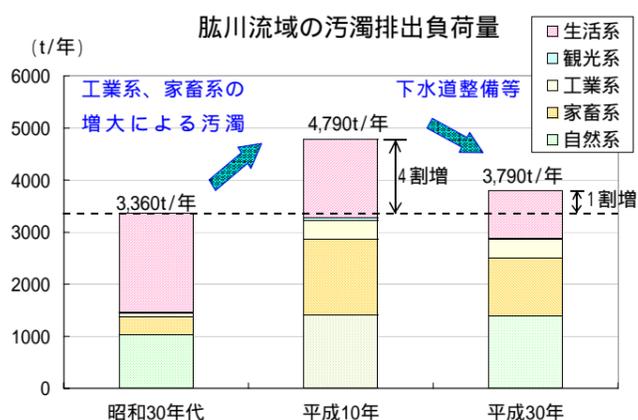
活動内容
河川の浄化等に関する啓発
水質の保全、改善に関する事業
その他目的達成のために必要な事項

水環境改善の流域での取り組み

- 流域負荷量の増加、野村・鹿野川ダム湖ではアオコが発生。
- 流域内全市町村で清流保全条例を制定し、清流保全推進協議会を設立。

「清流保全条例」制定
平成13年6月大洲市が、平成14年3月に他町村が、肱川流域の水環境保全を目的に「清流保全条例」を制定。

肱川流域清流保全推進協議会
流域12市町村、国及び県が連携して川の浄化と河川環境の保全を図ることを目的に平成14年7月に設立。



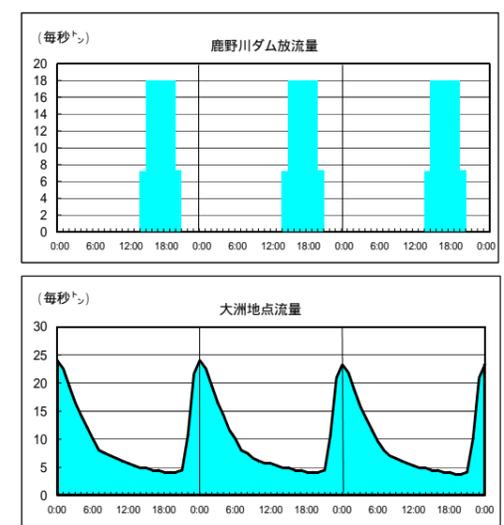
鹿野川ダム湖のアオコ発生状況



肱川流域清流保全推進協議会パンフ

流域で負荷量を削減する。

発電による水量の変化の現状 (イメージ図)



生態系の保全



アユの産卵場 (15k 付近)

清流の復活を目指す

- 鹿野川ダムの発電により1日の中で水量が大幅に変化。自然な流れの回復を目指す。
- 現状では湯水時に 3.3m³/s (通年) しか流れていなく、生態系の保全等の対策が必要。生態系や景観に配慮した水量確保が必要。

基本高水のピーク流量と計画高水流量

基準地点	大洲
基本高水のピーク流量	6,300 m ³ /s

検証

流量確率から 5,000 m³/s ~ 6,400 m³/s

昭和18年7月洪水の実績流量から 5,400 m³/s

平成2年型洪水型からの推定から 6,300 m³/s

以上から、現計画を踏襲

計画高水流量	4,700 m ³ /s
--------	-------------------------

正常流量

基準地点	大洲
正常流量	概ね 6.5 m ³ /s (ただし、冬期は概ね 5.5 m ³ /s)